

取扱説明書

ストリート走行ステアリングダンパー本体&クランプ		商品ID	4174	ミニモト製品
⚠注意				
<特長> ・モンキー、ゴリラは車重が軽い上、エンジンから発生する振動の影響を受けやすい為、ステアリングダンパーを取り付けすることでハンドルのフラつきを抑え走行安定性を高め、ライダーの疲労を軽減します。 ・滑らかな動作と16段階のダンパー調整機構つきのため、セッティングの幅も十分です。 ・ホンダ純正フロントフォーク対応のステアリングダンパー本体のみです。 ・取り付けには別途部品が必要です(必要部品:ストリート走行ステアリングダンパーブラケットセット単品NO5065)。				
<適合車> モンキー/ゴリラ(12V) Z50J-2000001~/AB27-1000001~ モンキー/ゴリラ3.1PS(6V) Z50J-1600008~1805927 モンキー/ゴリラ2.6PS(6V) Z50J-1300017~1510400 モンキー Z50J 1000001-1195595 *FIモンキー取り付け可				
<セット内容> ステアリングダンパー本体・・・1ヶ ステアリングダンパー取り付けクランプ・・・1ヶ *ボルト、ナット、カラーは組み込み済みにて出荷します。 				
<取り付け方法(取り付けパーツは別販売です)>				
				
画像1 フレームへアルミ製フレームブラケットを固定します。固定の際、図のような角度で取り付けを行います。ステアリングダンパー取り付け面を少し下げ気味にすることでタンクとの干渉を避けることができます。	画像2 アルミ製フレームブラケットはタンクマウントステー溶接部分と約5mmほどクリアランスを設けて固定してください。	画像3 アルミ製フロントパイプアウターブラケットはヘッドライトブラケットから10mmほど下げた位置へ固定します。タイロッド接続ネジ穴はハンドルロックに干渉しない位置へ取り付けします。	画像4 タイロッドへボルトM8×35を使いステアリングダンパーのタイロッド側を取り付けしてください。ボルトM8×35、タイロッド、アルミ製カラー(シルバー)の順に組み込みします。	画像5 ステアリングダンパークランプブラケットは当社にて部品を組み込み済みです(仮止め状態です)。ステアリングダンパーのパイプ本体へ取り付けします。
				
画像6 次にフレーム側です。タイロッドへM8ナット、M8スプリングワッシャー、M8平ワッシャーの順で取り付けします。	画像7 ハンドルを目いっぱい左へ舵を切った際にダイヤルノブと本体の間に3mmほどクリアランスが残るようにステアリングダンパークランプの位置を調整します。*スタンド立て掛け時(ハンドルが左へ目いっぱい傾きます)に負担が掛からないよう、クリアランスは必要です。	画像8 右へハンドルを切ります。その際にダンパーが写真のような位置へ来た際、ハンドルストッパー(フォーク部とフレーム部が当たる部分のこと)に当たることがあります。ショートダンパーのため、十分な稼働範囲が確保できません。そのため右へハンドルを切る場合はストローク状態に注意してください。負荷を掛けると壊れる恐れがあります。	画像9 イグニッションコイルは移設が必要です。コイル本体を20mm後方へ移動させるため、M5×40mmと平ワッシャーM5、アルミ製カラー(レッド)を使用して、画像のようなイメージで取り付けします。	画像10 取り付け完成時のイメージです。タンクとステアリングダンパーが干渉しないこと。スタンド立て掛け時に本体とノブの間に3mmほどクリアランスがあること。以上に注意してください。クリアランス等が十分でない場合はもう一度調整を行ってください。
<走行時の注意事項> ステアリングダンパーは16段階の硬さ調整機構があります。馴らし走行中はダンパーが”弱”の状態スタートし、様子を伺いながら”強”寄りへ調整していきます。ダイヤルを時計回りに操作すると硬さが増します。ダイヤルノブはイモネジで固定しています。走行前と走行途中で緩みが発生しないことを確認してください。ダンパーにはオイル溜まりが発生しますが、ダンパーをスムーズに動かすためにオイルが付着します。異常ではありませんので、ご安心ください。				
©ミニモト商品についてのご質問、ご意見は「お客様相談窓口」0266-75-5770 まで				